

持続可能な発展と国際開発協力 (15)

1. 講義の概要と目的

本講義は、「持続可能な発展 (Sustainable Development)」あるいは「サステイナビリティ (Sustainability)」という理念 (アイデア)・概念 (コンセプト)・理論 (モデル) を、以下の 2 つの側面から検討する。第 1 に、開発と環境をめぐる問題の時間的・空間的展開の中から「持続可能な発展」・「グローバル・サステイナビリティ」の検討を行う。第 2 に、実際の国際開発や国際開発援助における「持続可能な発展」あるいは「グローバル・サステイナビリティ」の政策的応用例を検討する。とりわけ本講義では、「持続可能な発展」のプロセス、特に社会的能力の形成と制度変化のあり方やガバナンスのあり方に着目し、グローバル・サステイナビリティを実現する国際開発協力のあり方について論じる。

2. 講義日程

第 1 部 持続可能な発展 (SD) の概念と理論

1. ガイダンス：持続可能な発展とは 4/07
2. 開発と環境：環境クズネッツ曲線 (EKC) 4/14
3. 持続可能性の理論 (MSY・MEY、コモンズ理論) 4/21、4/28、5/12
4. 持続可能な発展の指標 (SDI) 5/19

第 2 部 途上国の開発政策と持続可能な発展

5. 途上国の貧困と開発 5/19
6. 途上国の開発政策 5/26
7. 途上国の開発と環境 6/02

第 3 部 国際開発援助と持続可能な発展

8. 国際開発援助の歴史と制度 6/09
- 9-12. 開発援助政策の理論と評価 6/16、6/23 (休講)、6/30、7/07

第 4 部 新たな開発戦略

13. 国際開発協力と地球環境問題 7/14
- 14-15. まとめと試験 7/21 (試験)、7/28 (まとめ、補講予定)

3. 講義の評価・内容

1. 授業の内容

- 1.1 学問的に受ける知的刺激度
- 1.2 学習効果・将来における有用性

2. 授業の進め方

- 2.1 シラバスと授業内容との整合性
- 2.2 授業の進行度合い
- 2.3 めりはりの度合い・指摘事項等ポイントの的確性
- 2.4 専門的知識や用語解説の分かりやすさ
- 2.5 予習・復習等の必要性和勉強方法の提示
- 2.6 授業の開始・終了時間の正確さ

3. 教員の授業への取り組み

- 3.1 事前準備等授業に対する取り組みの熱心さ、質問に対する対応の適切さ
- 3.2 学生の理解力に応じた授業の実施状況
- 3.3 教科書・参考書の有用性、教科書・参考書指定の妥当性
- 3.4 パケット教材・その他配布資料の内容の有効性、量的な適切性

4. 試験・レポート等

- 4.1 試験問題・課題レポートの適切性
- 4.2 学習課題 (予習・レポート等) の適切性

参考文献

(1) 持続性 (Sustainability)

D. H. メドウズ (他) (1972), 『ローマクラブ「人類の危機レポート」 成長の限界』, ダイヤモンド社

Herman E. Daly (1977), *Steady-State Economics*, W. H. Freeman & Company

World Commission on Environment and Development (1987), *Our Common Future*, Oxford UP

(大来佐武郎 (監修) (1987), 『地球の未来を守るために』, 福武書店)

Kates, R. W. et al. (2001), Sustainability Science, *Science*, 292(5517), pp.641-642

Bell, S. and Morse, S. (2008), *Sustainability Indicators*, Earthscan

(2) 開発研究と環境研究 (Development Studies and Environmental Studies)

松岡俊二・松本礼史・河内幾帆(1998), 「途上国の経済成長と環境問題：環境クズネッツ曲線は成立するか」, 『環境科学 (環境科学会誌)』, 11(4), pp.349-362.

松岡俊二 (編) (2004), 『国際開発研究』, 東洋経済新報社

松岡俊二・朽木昭文 (編) (2003), 『アジアにおける社会的環境管理能力の形成：ヨハネスブルク・サミット後の日本の環境 ODA 政策 (アジアトピックレポート No.50)』, アジア経済研究所

井村秀文・松岡俊二・下村恭民 (編) (2004), 『環境と開発』, 日本評論社

Matsuoka, S. ed. (2007), *Effective Environmental Management in Developing Countries: Assessing Social Capacity Development*, Palgrave-Macmillan, London

Todaro, M. and S. Smith (2008), *Economic Development*, Longman

(岡田靖夫 (監訳) (2004), 『トダロとスミスの開発経済学』, 国際協力出版会)

渡辺利夫 (1996), 『開発経済学 (第2版)』, 日本評論社

(3) 制度・コモンズ・社会関係資本 (Institutions, Commons, and Social Capital)

North, D. C. (1990), *Institutions, Institutional Change and Economic Performance*, Cambridge UP

(竹下公視 (訳) (1994), 『制度・制度変化・経済成果』, 晃洋書房)

Ostrom, E. (1990), *Governing the Commons: the Evolution of Institutions for Collective Action*, Cambridge UP

Ostrom, E., R. Gardner, and J. Walker et al. (1994), *Rules, Games, and common-pool resources*, University of Michigan Press

Putnam, R. D. (1993), *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton UP

(河田潤一 (訳) (2001), 『哲学する民主主義』, NTT 出版)

(4) 開発援助 (Development Aid)

Easterly, W. and T. Pfutze (2008), “Where does the money go? Best and worst Practices in Foreign Aid”, *Journal of Economic Perspectives*, 22(2), pp.29-52

Easterly, W. (2007), Are aid agencies improving?, *Economic Policy*, October 2007, pp.633-678

松岡俊二・本田直子(2001), 「ODA 事業評価における専門性と総合性：DAC5 項目の具体化を中心に」, 『国際開発研究 (国際開発学会誌)』, 10(2), pp.49-70.

Matsuoka, S. (2009), Capacity Development and Institutional Change in International Development Cooperation, 『アジア太平洋討究』, 12, pp.43-73

Sachs, J. D. (2008), *Common Wealth: Economics for a Crowded Planet*, Penguin Press

(野中邦子 (訳) (2009) 『地球全体を幸福にする経済学』 早川書房)

UNDP (Annual), *Human Development Report*, UNDP

World Bank (Annual), *World Development Report*, World bank

World Bank (Annual), *World Development Indicator*, World Bank

WB and IMF (2008), *Global Monitoring Report 2008: MDGs and the Environment*, WB

(5) 地球環境と国際開発協力

松岡俊二 (2009), 「気候変動と国際開発協力」, 『国際開発研究』, 18(2), pp.7-18.

UNDP (2007), *Human Development Report 2007/2008: Fighting Climate Change*, New York: Palgrave-Macmillan